

町民のみなさんと議会をつなぐ

びっぷり議会だより

No. 128

令和 8 年 8 月

【表紙】

「春の白い妖精」
澤田 勇 さん（東町） 撮影

P5 一般質問 スバリ！ここが聞きたい

今井 明信 議員 / 佐藤 良彦 議員
遠藤 ハル子 議員 / 八巻 良博 議員
谷口 雅浩 議員 / 植西 浩一 議員

P11 複合庁舎建設に向けて

P14 連載「議会のシゴト」

P16 広報委員が聞く！町民インタビュー

複合庁舎建設など議案26件を審議

令和8年第2回議会定例会及び第3回議会臨時会がそれぞれ開かれ、提出された議案を慎重に審議しました。
今号では、主な審議内容を6つピックアップし、ご紹介します。

〈第2回議会定例会〉

移住定住の促進に向けて 旧新町団地跡地を無償譲渡

無償譲渡を行う土地は、公募型プロポーザル方式による譲渡事業により、民間の企画力や販売力などのノウハウを活用し、移住定住の受皿不足の効果的な解消を図ることを目的として進める旧新町団地跡地の活用事業に関するものです。

今回の譲渡地には、4戸の賃貸集合住宅が2棟、分譲地8区画が整備される予定で、いずれも令和8年度中に入居、販売の募集を行う予定となっており、分譲地は、更に4区画の分譲が可能な区画を設け、販売状況を踏まえて第2次分譲として販売される予定です。

議員の質疑・町の回答

Q 土地や建物が整備された場合、町の税収として、いくら見込めるか。

A 1年単位での見込みは、固定資産税、住民税、交付税などを合わせると、およそ2,000万円程度と試算している。

〈第2回議会定例会〉

学習用コンピュータとして タブレット端末を購入

比布中央学校で使用しているタブレット端末は、令和元年度から複数年かけて整備しましたが、耐用年数が5年程度であり、毎年故障が増えているため更新するものです。

- (1) 取得する財産
学習用コンピュータ (PC) 等161台
(2) 取得金額 7,792,400円

議員の質疑・町の回答

Q iPadを選ばれた理由は。

A これまでiPadを使用してきた経緯を踏まえ、Windows・Chrome・iPadの3種類を比較・検討した結果、iPadはタブレット端末として直接的な操作性が優れているとの評価があることから選定した。



〈第2回議会定例会〉

国民健康保険税率等を改正

国民健康保険は、平成30年4月から都道府県が財政運営の責任主体となり、市町村ごとの国民健康保険事業費納付金を決定し、市町村は保険税を賦課、徴収し、都道府県に納付金として納める仕組みとなっています。

納付金を納めるにあたり、比布町国民健康保険運営協議会において審議いただき、令和8年度の保険税率等を改正するものです。

税率等の詳細は、広報びっぴ7月号（7ページ）をご覧ください。

議員の質疑・町の回答

Q 今年も町の基金を投入しないとのことだが、今後基金をどのように消化していく予定か。

A 令和8年分所得が下がる場合は、令和9年度国保算定時に基金の充当が考えられる。

pickup1

議案第13号 財産の無償譲渡について

pickup2

議案第14号 財産の取得について

pickup3

議案第19号 比布町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

pickup5 議案第 20 号 一般会計補正予算(第 2 号)

あそか苑大規模改修工事に係る補助金として当初予算に計上していましたが、社会情勢により、資材等の高騰による工事費用の上昇が見込まれることから、720万円を増額補正するものです。



▲特別養護老人ホームあそか苑施設内

〈第2回議会定例会〉
**あそか苑大規模改修に係る
補助金を増額補正**

pickup4 議案第 20 号 一般会計補正予算(第 2 号)

観光パンフレットの作成補助及び比布駅前観光看板(鳥瞰図)更新のため、観光協会への補助金を220万円増額補正するものです。



▲比布駅前観光看板(鳥瞰図)

〈第2回議会定例会〉
比布駅前観光看板を更新

pickup6 議案第 3 号 一般会計補正予算(第 1 号)

〈第3回議会臨時会〉
**複合庁舎建設に伴う
各事業費を増額補正**
複合庁舎建設に伴い、下記表のとおり補正するものです。

議員の質疑・町民の回答

Q デザインビルド方式を取り入れるメリットが不明確。今後、この方式が変更になった場合、地域未来交付金が使えなくなる懸念はないか。

A 補助金は事業実施に対するもののため、基本的に問題ないと考え。デザインビルド方式を選定した理由は、工期短縮と住民生活への配慮、建設費の見通しが立てやすいことが挙げられる。

Q 新庁舎建設のメリットとして、特に光熱費などのランニングコスト削減効果を具体的に示してほしい。

A 施設の一括化により、光熱水費を含めて年間2,000万円程度の削減が見込まれる。また、早期建設により、ランニングコストの削減に加え、資材価格の上昇抑制も期待できる。

※デザインビルド方式
建物の設計と施工を単一の事業者に一括して発注する方式。

事業名等		補正金額	摘要
歳入	地域未来交付金	1億2,314万7千円の増	実施設計及び解体工事に係る歳入財源補正
	庁舎等整備基金繰入金	926万4千円の増	実施設計及び解体工事に係る歳入財源補正
	繰越金	292万円の増	実施設計及び解体工事に係る歳入財源補正
	備荒資金組合納付還付金	2,880万円の増	実施設計及び解体工事に係る歳入財源補正
	複合庁舎建設事業債	3億9,700万円の増	実施設計及び解体工事に係る歳入財源補正
歳出	情報化促進事業	223万9千円の増	福祉会館解体に伴い、教育委員会等の仮事務所として改修する図書館に業務用ネットワーク回線を整備するための補正
	複合庁舎建設事業	5億4,819万5千円の増	複合庁舎の実施設計業務、福祉会館、ひまわり荘及び役場赤レンガ書庫解体など既存施設撤去工事のための補正
	図書館管理事業	1,069万7千円の増	教育委員会及び社会福祉協議会仮事務所の整備に係る補正

■第3回議会臨時会（令和8年5月20日開催）議決結果■

件 名	結 果
議案第1号 専決した事件の承認について	原案可決
議案第2号 新町団地1条道路ほか改良工事請負契約の締結について	原案可決
議案第3号 令和8年度比布町一般会計補正予算（第1号）について	原案可決

■第2回議会定例会（令和8年6月18日開催）議決結果■

件 名	結 果
報告第1号 令和7年度比布町一般会計繰越明許費繰越計算書について	報 告
報告第2号 令和7年度比布町簡易水道事業会計予算繰越計算書について	報 告
報告第3号 令和7年度比布町公共下水道事業会計予算繰越計算書について	報 告
議案第1号 農業委員会委員の任命について	同 意
議案第2号 農業委員会委員の任命について	同 意
議案第3号 農業委員会委員の任命について	同 意
議案第4号 農業委員会委員の任命について	同 意
議案第5号 農業委員会委員の任命について	同 意
議案第6号 農業委員会委員の任命について	同 意
議案第7号 農業委員会委員の任命について	同 意
議案第8号 農業委員会委員の任命について	同 意
議案第9号 農業委員会委員の任命について	同 意
議案第10号 農業委員会委員の任命について	同 意
議案第11号 農業委員会委員の任命について	同 意
議案第12号 北2丁目道路改良工事請負契約の締結について	原案可決
議案第13号 財産の無償譲渡について	原案可決
議案第14号 財産の取得について	原案可決
議案第15号 比布町監査委員条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第16号 比布町長等の損害賠償責任の一部の免責に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第17号 比布町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第18号 比布町税条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第19号 比布町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第20号 令和8年度比布町一般会計補正予算（第2号）について	原案可決
議案第21号 令和8年度比布町国民健康保険特別会計補正予算（事業勘定）（第1号）について	原案可決
議案第22号 令和8年度比布町介護保険特別会計補正予算（第1号）について	原案可決
意見書案第1号 ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書の提出について	採 択

お知らせ

次回の議会定例会は9月上旬です！

9月定例会では、令和7年度の決算審査を行う「決算特別委員会」が開かれます。

委員会では、町のお金の使われ方などを質疑を通じて明らかにし、より一層適正で効率的な使い方を議論します。

詳しい日程は、無線放送等でお知らせしますので、お気軽に傍聴にお越しください。

北海道町村議会議長会表彰



佐藤康則議長が北海道町村議会議長会から自治功労者（勤続15年以上）として表彰され、6月18日開会の第2回定例会の席上で今井明信副議長から表彰状が伝達されました。



いま い あきのぶ
今井 明 信 議員

部活動の地域展開について

三浦教育長

今後も広域的な連携を図りながら 持続的な活動体制の構築に取り組む

□質問・今井議員

部活動の地域展開は、教職員の負担軽減や持続可能なスポーツ・文化環境の確保を目指して現在進められています。現在、比布中央学校の生徒が活動をしている5部活動（野球・卓球・ソフトテニス・剣道・吹奏楽）の現状と今後について、本町が進める部活動の地域展開の姿について、次のとおり質問します。

- ① 5部活動の現在の状況と移行へのスケジュールについて。
- ② 地域の指導者や民間企業による練習の「内容」や「質」が変わることも予測されるが子ども達への対応・ケアについて。
- ③ 地域クラブ移行後の運営責任について。

■答弁・三浦教育長

本町の部活動の地域展開については、スポーツ庁及び文化庁が策定した「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」に基づき、生徒のニーズや地域の実情に応じた活動機会の確保を図るため、近隣町と連携・協力しながら取り組みを進めています。これにより町外での活動に参加する選択肢も考えられます。

今後は保護者の理解を得ながら指導者及び活動場所の確保、実施

主体の整備、活動への支援等を進め、体制が整った部活動から順次地域展開へ移行し、令和10年度までに全ての部活動の地域展開への移行を目指します。

- ① 既存のスポーツ少年団の指導者等と現在、協議を進めています。本年4月には剣道部を廃止し、剣道スポーツ少年団に活動を担っていただいています。吹奏楽部については、保護者会を主体とした運営体制による地域展開を目指しており、令和9年度からの移行に向けて準備を進めています。現時点で見通しが立っているのは二つですが、その他の部活動については、部員数が減少しており、推移を見ながら対応を進めます。
- ② 指導者の質の確保・向上については、養成及び資質の向上に努めます。
- ③ 地域展開後の活動主体については、学校ではなく、地域のスポーツクラブや文化クラブ、各種競技団体など、地域の実情に応じた多様な形態が考えられます。

スポーツ系の活動は、現在のスポーツ少年団活動と同様に、指導者等が運営責任者となることを想定しています。また、文化系の活動は、保護者会を主体とした運営体制も想定しており、受け皿となる団体が責任を持って運営を担う

と考えています。

□今井議員

町内外の指導者の人材発掘について、指導者による体罰やハラスメント行為への監視・指導・罰則の対応について、教育委員会として今後どう考えますか。

■三浦教育長 剣道部は、少年団の指導者が豊富にいたるため、その方々に依頼して対応しています。吹奏楽部は、現指導者が継続して担当する見通しがついています。その他の活動は、教職員の活用も含めながら検討していく予定です。

今後、体罰やハラスメント行為が発生した場合、町内外を問わずに教育委員会として把握し、窓口となり各団体と対応します。

□今井議員 指導者等の運営責任について、学校保健安全法は学校外の活動であっても、生徒の健康診断や安全教育の実施、学校施設利用等の安全点検を通じて教育委員会が子ども達を管理するとの内容です。ガイドラインとの整合性も含めて、教育委員会の運営責任について伺います。

■三浦教育長 すべての団体に学校保健安全法が適用されないと思いますが、地域認定クラブになるには、スポーツ保険に加入しなければなりませんので、怪我をした場合の補償は、町での活動と同様に今後も補償されると思います。



地域包括ケアシステムの 進化と深化

村中町長

関係機関等と協議を深め 一体的な地域包括ケアシステムを目指す



さとう よしひこ
佐藤 良彦 議員

□質問・佐藤議員

2025年には団塊の世代は後期高齢者（75歳）となり、高齢者は約3,624万人で、総人口に占める割合（高齢化率）は29・3%、後期高齢者だけでも2,000万人になると推測されています。

また、2022年の1人当たりの医療費は、65歳までの平均が18万円と言われていますが、75歳以上になると95万円まで膨れ上がります。そのため、必要な医療費が増えれば財源を補うために生産年齢人口における社会保障費の徴収が増えることも懸念されます。

2024年の診療報酬改定以後、これまでの急性期病院を中心とした「病院完結型」の医療から転換し、患者が身近な地域で、それぞれの医療機関が役割を分担・連携して、切れ目のない医療を提供することを目指すのが「地域完結型医療」です。

比布町で例えるならば、ぴっぷクリニックの指定管理者である元生会と連携、もしくは周辺医療施設で「訪問医療・在宅医療・在宅療養」ができる体制づくりを早期に実現しなければならぬと考えます。

小規模自治体としての優位性を活かし、フレキシブルで柔軟な取り組みとして「一体的な地域包括ケアシステムの確立」を早期に実現すべきと考えますが、町長の考えを伺います。

■答弁・村中町長

本町においては、令和8年3月末現在で65歳以上の高齢化率は43・9%、75歳以上の後期高齢化率は27・6%と高い状況です。

地域包括支援センターと社会福祉協議会では、地域の高齢化やボランティアの担い手不足のなか、「お互いが見守りあう」小規模自治体ならではの地域づくりを目標とし、自分や家族、近隣の方に対し、リハビリ体操の普及啓発活動を町民自ら実施できる場の提供を行い、介護予防として木曜体操やピピリハ健康体操事業へ参加を促しています。

また、保健分野においては、特定健診や後期高齢者健診の実施、健診受診者への個別保健指導や重症化予防のための訪問を行い、地域や通いの場へ外出き、生活習慣病予防講話等のポピュレーションアプローチを実施しています。

医療については、平均寿命が男性で80歳近くになり、女性では86歳を超える社会では、複数の疾病を抱えるなどの特徴を持つ高齢期の患者が多く、病気と共存しながらQOLの維持、向上を目指す医療、住み慣れた地域や自宅での自立した生活のための医療、地域全体で治し、支える、「地域完結型」の医療にシフトしていかなければなりません。

ません。

ぴっぷクリニックでは、現在は外来のみの対応ですが、入院や検査が必要な場合は、元生会（森山病院）及び旭川市の5大病院等と連携し、必要な医療につなげていきます。

しかし、85歳以上が増加する2040年頃には、在宅を中心に入院を繰り返す、終末期には看取りを要する高齢者を支える医療を提供する必要がある、その際には、かかりつけ医機能の確保や在宅医療の強化、介護との連携強化等が重要で

指定管理者である元生会においては、在宅での医療提供の充実を目指していることから、人材の確保や採算性などの課題はありますが、協議を深めていく必要があると考えています。

町民の皆さんが不安なく治療し、地域に戻っても必要な医療・介護・福祉サービスが受けられ、安心して生活できることは、多くの町民の願いであるとともに、「住んで良かったと思えるまちをめざして」の実現につながると思いますので、これからも本町の優位性を活かした「一体的な地域包括ケアシステムの深化」に努力してまいります。



一般質問 スバリ！ここが聞きたい

高齢者等移動支援サービスの わかりやすい周知を

村中町長

問い合わせや相談による説明に加えて
紙面等によるわかりやすい周知に努める



えん どう はる こ
遠藤 ハル子 議員

□質問・遠藤議員

比布町では、道北バスやJRなどの公共交通機関が利用できる一方で、高齢者にとっては旭川市への通院や買い物などに不安を抱える方も多く、ぴびたくや福祉有償運送などの移動支援サービスは、日常生活を支える大切な制度です。

しかし、利用者の中には、「どのサービスを利用できるのか分かりづらい」「介護認定を受けている場合の利用条件が理解しにくい」「申し込み方法や利用基準が十分伝わっていない」といった声も聞かれます。

利用者が制度内容を正しく理解し、自分に合ったサービスを安心して利用できるよう「利用基準や各サービスの分かりやすい周知」が必要だと思いますので、町長の考えを伺います。

■答弁・村中町長

利用者の皆様には、予約が混んでいる場合などは、時間や日程を変更して運行へのご協力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。

これまでも問合せがあった場合は、町・社協において身体状況などの聞き取りを行い、それぞれ該当するサービスの利用につなげてきており、ケアマネジャーや地域包括支援センターを経由してサービスを

申請いただくこともあります。

問合せや相談による説明に加えて紙面等によるわかりやすい周知に努めます。

□遠藤議員　ぴびたくの昨年度1年間の登録者数は247人、延べ利用回数は1,697人、全体延べ利用実績は2178回で、昨年4月から、ぴぶクリニックへの送迎も始まり、医療機関への通院で年間480回も利用されています。

年金受給日など予約が集中する際には、日程の変更をお願いしたり、他の職員で対応しているようですが、今後と同様に日程の変更を求める運用となるのか、混んでいる場合には職員が対応するなど、町民の要望に応えるのか、改善に向けた考えを伺います。

■村中町長　ご不便をおかけしますが、できる限り職員も対応し、利用者の方々の希望に沿うような日時に運行できるよう努めていきたいと思っておりますので、一定のご理解もいただきたいと思います。

□遠藤議員　他町では、利用者の不安や疑問を解消するため、「よくある質問」をホームページ等で周知していますが、本町においても登録していても利用につなげていない方や、利用方法に不安を感じている方への支援として、周知していただければと思います。

また、現在、第9期高齢者福祉計画と介護保険事業計画を実行しているところですが、町民の皆さんのお力や役場職員の方、皆さんで協力して、この町を良くしたいという方々が一つになることが、今後大切ではないかと思っています。

今後、町民も職員もウェルビーイングの実現のために、幸福度が高まる比布町民であり続けられるよう、町長、保健福祉課が先頭に立って頑張ってほしいと願います。

■村中町長　Q&A方式による周知は、様々な民間の制度でも活用されていますので、これまでの積み重ねの中で質問の多い事項を整理し、プリントにするとわかりやすいと思いますので、参考にさせていただきます。

現状維持ではだめだと思っていますので、これから町民の方々が安心して暮らせるように、様々な制度改正も行いながら進めたいと思いますので、今後ともご指導を賜りますようお願いいたします。

※ウェルビーイングとは

身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを指す。単に「病気ではない」という状態ではなく、自分らしく、生きがいや人との良好なつながりを含めた、持続的な幸福や充実感を意味する。



びっぷ良佳村の 民間移譲について

村中町長

良佳村3施設の運営方法について 新たな形を検討する時期にきている



やまぎ よしひろ
八巻 良博 議員

□質問・八巻議員

びっぷスキー場、遊湯びっぷ、パークゴルフ場、キャンプ場からなる「びっぷ良佳村」は、道内最大級の町営リゾート施設であり、比布町の誇るべき観光・情報発信拠点です。スキー場が1億円以上の売上を記録するなど高い評価を得る一方、その経営環境は極めて厳しい状況にあります。

現在、町は待ったなしの状況である役場庁舎の改築を進めています。が、町民が最も懸念しているのは今後の町財政です。この厳しい財政状況下において、良佳村の経営維持は町にとって非常に重い負担となっています。

一方で、ニセコエリアの飽和や周辺スキー場の再開発機運の高まりに見られるように、民間市場の投資活力は旺盛です。

夏冬ともに美しい景観と多彩な施設を持つ良佳村には、民間資本による再開発が導入されれば、さらなる飛躍を遂げる潜在価値が十分にあります。

本町の宝である施設を未来へ引き継ぐためにも、良佳村の民間移譲への道を模索すべきと考えますが、町長の見解を伺います。

■答弁・村中町長

びっぷ良佳村は、平成10年に交

流促進施設「良佳プラザ・遊湯びっぷ」が開業され、平成12年にパークゴルフ場をメイン施設としたグリーンパークびっぷが完成し、びっぷスキー場も含めて本町を代表する通年観光エリアとなりました。

令和7年度については、町内外から約15万8千人の方に訪れていただきましたが、昨今のエネルギー価格をはじめとする運営経費の高騰により、黒字化は極めて難しい状況です。

公共施設を民間企業と協力して運営することについては、業務委託や指定管理者制度、譲渡などがあります。運営方法の見直しにあたっては、観光関係団体のみならず様々な団体等と協議を重ね、ご理解とご協力をいただきながら、町財政への影響や町内における経済波及効果、利用者の利便性など各施設、各方法を多面的に分析し進めていかなければならないと考えています。

また、良佳村3施設の中でもスキー場については昭和42年の営業開始から約60年という長い歴史があり、町のシンボリックな施設として町民にとっても特別な施設であると思っています。これからも町民が「私たちのスキー場」と言えるように、町民の気持ちに寄り添い検討を進めますが、良佳村3施設を現在の運営方法で長期的に維持していくことは困難であると考えており、新たな形を検討する時期にきています。

現在、良佳村の運営について、複数の民間事業者が興味を示していますので、いただいた提案を十分に研究し、あらゆる可能性について検討します。

□八巻議員 現時点で具体的なものがないのは重々承知していますが、現在、株価が7万円を超え、民間企業にとってのバブル状態となっており、資金の市場への流入は顕著です。

びっぷ良佳村は、高速を降りて3分で到着する場所にあり、JRやバスも通じ、施設も充実しています。今こそ観光業者だけでなく、様々な企業にアピールをする時ではないでしょうか。

■村中町長 財政的に豊かではない中で、現在、一番新しいリフトでも30年以上経過しており、掛け替えに8億円程度かかります。また、圧雪車も1億円程度必要となるなど、このまま町営で運営していくことは難しい状況です。

複数の民間事業者が興味を示していますので、町民の思いを大切にしながら検討します。



谷口 雅浩 議員

稼ぐ、儲ける自治体になるために

村中町長

地域資源を有効活用し 地域全体の価値を高める取組みを進める

□質問・谷口議員

少子高齢化、人口減少社会の到来を受け、町はこれまでも行財政改革や広域連携を進めてきました。また、行政領域のデジタル化が進み社会情勢も大きく、また、急速に変化する中、「住んで良かったと思われるまち」になるには、財源確保が必要です。自主財源が上がれば安定したまちづくりに寄与するのではないのでしょうか。すなわち稼ぐ、儲ける自治体への転換が不可欠です。

そこで、次の3点について町長に伺います。

- ①旧クリニック院長宅など未利用地の貸付や売却をして、収益を上げる考えはありますか。
- ②スキー場など、公有財産の命名権を企業等に有償で提供するネーミングライツを実施する考えはありますか。
- ③ふるさと納税増加に向けたPR・返礼品の拡大や体験型返礼品の強化を図る考えはありますか。

■答弁・村中町長

①のご質問については、行政目的による利用の必要性を十分検討したうえで、活用見込みの低い財産については維持管理経費などの負担ともなることから、貸付や売却を含めた民間事業者による利活

用や定住促進、起業支援など、地域活性化につながる活用方法の検討を進めます。

また、現在進めている複合庁舎建設に伴い、将来的に活用方法の見直しが必要となる公共施設や土地についても、町全体の公共施設マネジメントの観点から、有効活用の可能性を検討します。

②のご質問については、将来にわたり持続可能な施設運営を実現するため、あらゆる可能性を検討すべき時期を迎えていることから、新たな財源の確保や施設のより良い運営を目指すためには、有効な選択肢の一つであると認識しています。

一方で、公共施設を民間企業等の名称に変更することは、公共施設としてのイメージが損なわれるとの意見もあることから、ネーミングライツの導入にあたっては、慎重な対応が必要とも考えます。中でも、本町において、観光施設の「顔」とも言えるびっくスキー場については、昭和59年に現在の名称に定められて以来、長年地域の皆さまに親しまれ、歴史や愛着が育まれてきた大切な財産です。で、施設名称が地域に深く定着している場合や、施設の性格上、特定企業名を冠することがなじま

ない場合など、それぞれの施設の個性を大切にしながら、丁寧に検討していきます。

③寄附額の増加に向けたPRについては、各種ポータルサイトでの情報発信に加え、物産展など各種イベントへの出展による新規寄附者の獲得や寄附者へのメール配信によるリピーターの確保に取り組んでいます。

一方、返礼品は配送型が中心であり、体験型返礼品はびっくスキー場のリフト券や宿泊施設の利用券などに限られています。体験型返礼品は、寄附者が本町を訪れ、町内での食事や買い物、観光などの消費につながることも期待されます。

本町には、農産物や観光施設、技術を持った事業所など、体験型返礼品に発展させることができる地域資源がありますので、今後も研究を深め、ふるさと納税を単なる財源確保の手段にとどめるのではなく、町の産業振興や町内消費の拡大、交流人口・関係人口の創出などにつなげ、持続可能なまちづくりに資するよう、引き続き取り組めます。



認知症予防を家庭で

村中町長

人それぞれに合った認知症進行予防の研究も必要と考える



うえにし こういち 議員 植西 浩一

□質問・植西議員

認知症予防もしくは初期認知障害の進行予防は、家庭に溶け込んでこそ、本来の予防効果が発揮できるものと感じています。町では、どのように各家庭に予防活動を啓発していくのか伺います。

■答弁・村中町長

体を動かすことは、WHOのガイドラインにおいて、認知症予防として推奨されています。本町では木曜体操事業及び自宅でも取り組めるピピカツリハビリ体操（シルバリーハビリ体操）の普及事業を行っており、場所を選ばず本人の身体状況に応じて取り組める体制が構築されています。併せて令和7年度は75歳以上の方を中心に、町と社会福祉協議会などの連携による戸別訪問で身体状況などの確認を行い、適切な事業への勧奨を行ったところです。

□植西議員 ふまねっと運動は、声かけとセットで行われているもので、この言葉の使い方[※]で快刺激となったり、不快刺激となったりします。また、快刺激が要介護状態の進行を妨げると言われていますが、快刺激を認知症予防につなげることに町長の考えを聞かせてください。

■村中町長 保健センターや包括支援センター職員に専門の知識があり、人それぞれに合った認知症進

行予防もできればと思います。町独自で可能かわかりませんが、事例もあると思いますので、研究しなければいけない課題だと思います。

※快刺激とは

対象者にとって心地良いと感じる言葉や対応。表情などを見ながら選択する必要があり、難しさもあるが認知症進行予防に有効と言われている。

ネットリテラシー教育について

□植西議員 学校教育の中で情報教育（ネットリテラシー教育）を施す必要があると感じますが、教育長の考えを伺います。

■三浦教育長 文部科学省では、GIGAスクール構想の推進とともに、「情報活用能力」を言語能力と同様に学習の基盤となる資質・能力として位置付けています。この情報活用能力には、必要な情報を収集・整理する力、情報の真偽を見極める力、SNSや生成AIを適切に活用する力、情報を倫理的に発信する力などが含まれており、単に端末を使いこなすことではなく、情報を主体的かつ批判的に扱う力の育成を重視しています。学校教育においては、発達段階に応じた指導や教科等横断的な情報教育、生成AIのリスク理解、著作権や個人情報保護に関する学

習を進める方向が示されています。とりわけ、現在改訂に向けた議論が進んでいる次期指導要領においては、中学校技術科の中に明確にネットリテラシーをはじめとした情報活用能力の育成が位置付けられ、小学校の総合的な学習の時間にも情報領域が位置付けられるなど、学習内容として系統的に明確化されていく議論が進んでいます。

本町も学校・家庭・地域が連携しながら保護者への啓発の機会を設定、充実させていくことや、先行して情報モラル教育の充実を喫緊の課題と捉え、教職員研修や教材の活用を進め、AI時代をより豊かに生き抜くために必要な情報活用能力を育む教育の推進に努めます。

□植西議員 インターネットやAIを活用可能になることが「生きる力」につながるとお考えですか。

■三浦教育長 体験や経験をもとにしたリアルな学びが充実する方向にデジタルが活用されなければ意味はなく、その先にある価値をしっかりと見据えた一つのツールとして活用していくことを重視しています。

□植西議員 家庭でのリテラシー啓発をどのようにお考えですか。

■三浦教育長 参観日などの機会を活用しながら、警察とも連携し啓発していく予定です。

複合庁舎建設に向けて

全員協議会（5月1日・20日開催）が開かれ、複合庁舎建設について協議を行いました。
今号では、主な審議内容をピックアップし、ご紹介します。

Q…委員からの質疑
A…担当からの回答

補助金について

Q 交付金の対象範囲は。

A 地域未来交付金は事業費の2分の1が交付されます。対象は町民利用スペース（地域くらしサービス拠点）に関わる部分で、実施設計分の採択額は約1億2,300万円です。毎年度申請となり、補助上限額は10億円です。

町民説明会について

Q 説明会の参加人数は十分と考えているか。

A 第1回説明会は約40名、第2回説明会（5月9日・11日）は11名と8名の参加があり、出前講座は各団体15〜20名の参加がありました。第1回説明会で内容を理解いただいた方が多かつたため、第2回の参加が少なかつたと考えられます。出前講座でも多くの依頼をいただき、全体としてはおおむね住民にご理解いただいたと考えています。

Q 何をもって町民の合意形成が得られたと判断するのか。

A 様々なご意見があると思います。が、質疑やアンケートの中で一定程度の賛成や必要性が感じられれば、一定の理解を得られたものと考えています。最終的には議員皆さまの判断も必要になります。

物価高騰への対応

Q 極端に物価高騰した場合には、どのように対応するのか。

A 物価高騰がどの程度になるかは、現時点で正確に見通すことが難しい状況です。ただし、地域未来交付金は物価の上昇分が認められているため、その時点で財政シミュレーションを行い、どれだけ財政が耐えられるかを判断したいと考えています。

工事期間中の対応

Q 工事事務所や駐車場をどのように想定しているか。

A ひまわり荘を解体して駐車場に

する予定です。現場事務所も設置し、車両の出入口を複数箇所設けることで、周辺住宅への影響を最小化します。

事業費の償還について

Q 総事業費全体の償還はいつ頃を予定しているか。

A 償還終了は令和40年を予定しています。

透明性とチェック体制

Q デザインビルド方式で一社が設計から施工を行うと、透明性の問題が生じるのでは。外部有識者やコンストラクション・マネージャーによるチェック体制について、どのように調整していくのか。

A 第三者によるチェックについては、監理業務を委託し、施工状況について別の視点から確認してもらいます。同時に職員についても、この大きな事業を機に経験を積み、今後の事業に生かせるような体制を整えていきたいと考えています。



常任委員会
調査レポート

総務常任委員会（6月8・10日開催）、産業建設常任委員会（6月4日開催）がそれぞれ開かれ、所管分野に関する課題等について調査を行いました。
今号では、主な内容をピックアップし、ご紹介します。

【A】委員からの質疑
【Q】担当からの回答

保健福祉課
特定健康診査の
受診率向上へ

特定健康診査の受診率は50.1%で、国保加入者が後期高齢者医療制度へ移行したことによる対象者の減少に伴い、受診者数も減少しています。特に50代・60代の受診率低下が課題です。

特定健康診査受診率年次推移

項目	5年度	6年度	7年度
対象者数※	540人	510人	495人
受診者数	282人	266人	248人
受診率	52.2%	52.2%	50.1%

※対象者は比布町国保通年加入者



▲特定健康診査

【Q】病院に通っていることで健診を受けない方も多いが、大きな病気の発覚リスクが高まる世代に対しては、「健診は別で受ける必要がある」という呼びかけを徹底してほしい。
【A】市内病院やクリニックでの健診体制を整備し、若い年代からの習慣化と50代・60代への呼びかけを強化する。

保健福祉課
除雪サービス改正案が
示されました

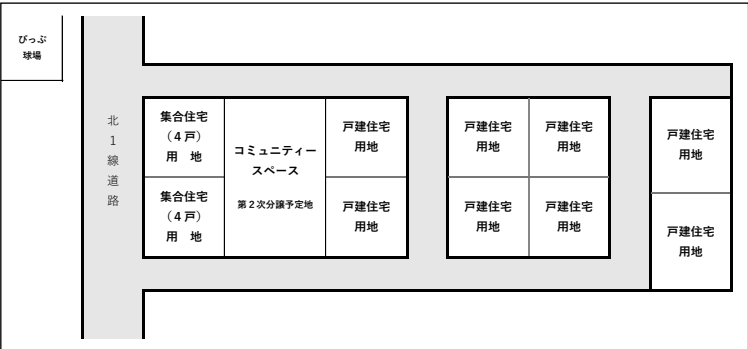
令和8年度冬期から、利用対象年齢の引き上げや、日常的に自家用車の使用が不可欠な世帯への対応、利用料金の定額制導入などの改正案が示されました。
また、各家庭の除雪カルテ作成によって、除雪範囲などを明確化する仕組みも構築されます。

【Q】除雪サービスの年齢引き上げにより、既利用者と新規の同年齢者との間に不公平感が生じないか。
【A】民生委員や社会福祉協議会と連携し、一人一人丁寧な事情を聞き取り、納得を得ながら制度移行を進める。



総務企画課
町有地を
民間企業に無償譲渡

旧新町団地跡地の町有地を「株式会社生活プロデュース」に無償譲渡。移住定住促進のため、民間の営業ノウハウを活用します。



▲旧新町団地跡地 整備イメージ図

Qなぜ売却ではなく無償譲渡なのか。

Aこれまで町が分譲地として販売してきた土地は売却が進まない事例も見受けられた。町は不動産業者ではなく、営業ノウハウやネットワークに限界がある。一方、民間業者は豊富な営業網を有しており、流動化を促進できる。

農林課

機械化による生産性向上を支援

持続可能型農業支援事業では、自動操舵装置の要望が5件と最も多く、13件の要望に対して、執行予定額4,858,500円。青果物等作付推進事業は、さつまいも苗の要望が5件と最も多く、10件の要望に対して、執行予定額3,970,400円で、予算内での対応が可能。

Q補助対象となった機械や事業内容の事例は農業者に共

有されているか。

Aプライバシー保護の観点から個別事業者の特定につながる情報は共有していないが、募集時に対象となる機械の例示方法を工夫するとともに、引き続き農協とも連携を図っていく。

商工観光課

ぴっぷスキー場の営業方針

ホームページのリニューアルが本格稼働。多言語化とスマートフォンへの対応が可能となり、外国人対応を強化します。

また、スキー場60周年記念事業として、記念グッズやイベント企画を検討中。

ナイター営業時間やリフト料金の見直し、キッチンカーの出店など、来場者の増加に向け検討を進めています。

Qナイター営業時間見直しの背景は。

Aナイター照明が老朽化し、設備更新に多額の費用を要す

るため、縮小を検討している。一方で、ナイター利用者を増やすための対策も検討しているが、費用面が課題となっている。

ぴっぷスキー場来場者数

項目	5年度	6年度	7年度
12月	5,556人	6,700人	4,993人
1月	24,853人	22,894人	23,648人
2月	17,547人	17,171人	15,734人
3月	5,314人	6,359人	6,988人
合計	53,270人	53,124人	51,363人

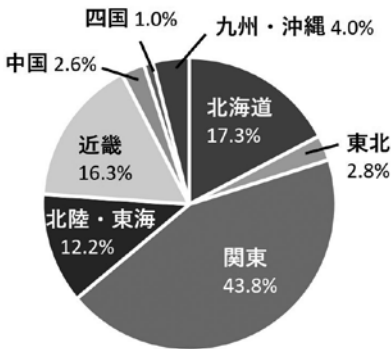
※令和8年5月28日現在

商工観光課

ふるさと納税が好調
比布の特産品を全国へ

令和7年度の寄付額は8,292万2,500円。返礼品は、お米が76・4%を占め、最も人気なのは、ゆめぴりか5kgです。

【地域別 寄付の状況】



Q返礼品の在庫状況は。

A最も人気のゆめぴりかは、農園によっては、既に令和7年度のお米の在庫がない状況。

その他の返礼品はまだ余裕があり、現在も受け付けている状況。事業所と連携し、在庫以上の受け付けは控えている。

令和8年5月末現在では、1,545万4,000円で、前年同月比154%と好調です。

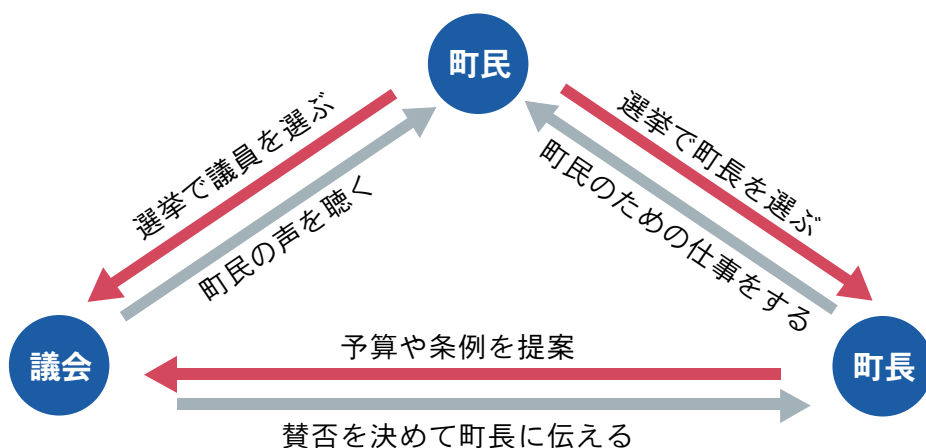
令和8年10月からの新基準に対応した返礼品の充実を図ります。

議会のシゴト

町民の声をまちづくりにつなげる。

より多くの皆さまに議会の役割や活動を知っていただくため
今号から3回にわたり「議会のシゴト」をテーマに連載します。

町民・町長・議会の関係



議会は、町の将来や行政運営について議論し、決定する機関です。議員は町民の代表として、町の仕事が正しく行われているかを確認し、より良い町にするための提案や審査を行います。

議会ってどんな仕事？



一般質問

町の課題や施策について質問し、町政の改善を求めます。



予算・決算審査

町のお金が適切に使われるように内容を詳しく審査します。



条例審査

町のルール（条例）を審査し、必要に応じて制定や改正を行います。



行政チェック

町の仕事が正しく行われているかをチェックし、改善を求めます。

数字で見る議会

議員定数

9人

比布町議会議員は9人で構成されています。

議員報酬（月額）※

193,000円～
275,000円

役職により報酬額が異なります。
※所得税控除前の金額

Interview

議員に聞いてみました！



Q 議員のやりがいとは？

(八巻良博 議員)

比布町の未来を創る一翼となっていることにやりがいを感じます。様々な方に挑戦してほしいです。



Q 議員活動を通して得たことは？

(佐藤良彦 議員)

町民の皆さんの声を聞く大切さ、地域の魅力発信、地域の課題解決に向けて学ぶ良い機会をいただきました。

比布町議会の年間スケジュール

比布町議会の1年の流れを一部ご紹介します。

3月
月上旬

第1回定例会（4日程度）

3月定例会では「予算特別委員会」が開かれ、新年度予算について、町民の立場に立った公平なものになっているかなどを議論します。



1月
月下旬

第1回臨時会

緊急を要する議案を審議します。



定例会や臨時会の前に議案の調査を行う常任委員会と議会の運営について協議を行う議会運営委員会を開催します。

6月
月上旬

第2回定例会（1日程度）

行政等から提出される議案を審議します。



3月
月下旬

第2回臨時会

緊急を要する議案を審議します。

10月
月上旬

住民との意見交換会

町の課題や議会運営について町民の皆さんと話し合う「議会と話そう」を行います。



9月
月上旬

第3回定例会（3日程度）

9月定例会では、決算審査を行う「決算特別委員会」が開かれ、町の予算について、より適正で効率的な使い方を議論します。

11月
月上旬

常任委員会出向調査

他の自治体等の活動状況や取り組みについて調査・研究を行います。



11月
月下旬

第3回臨時会

緊急を要する議案を審議します。

その他の議員のシゴト

町内行事や各種会議等（年間40日程度）への参加や、地域課題の把握に努めるため、町民のみなさまの意見や要望を伺い、町政に反映させる取り組みを行っています。

12月
月中旬

第4回定例会（1日程度）

行政等から提出される議案を審議します。



「ありがとう」をやりがいに

たにし ちさと
谷越 千里さん（南町）



Q ピピたく運転手のやりがいは？

利用者の皆さんが親切に接してくださり、毎日楽しく仕事に取り組むことができます。

利用者さんから「ありがとう」と感謝の言葉をいただくことが嬉しく、それが仕事のやりがいに繋がっています。

Q 利用者さんに安心してもらうために工夫したことは？

高齢者移動支援サービス（ピピたく）の事業が始まった当初は、一軒一軒訪問して事業の説明に伺いました。どのような事業なのか、どんな人が運転するのかを知ってもらうことで、利用者さんに安心して利用していただけたと思います、丁寧に説明することを心がけました。

Q 大変だったことは？

冬場の運転は特に大変でした。雪道や路面状況に気を配りながら、利用者さんに安心して利用してもらえよう、安全運転を心がけています。

（インタビュアー：谷口 雅浩）

「歩くからこそ見える発見」

さわだ いさむ
澤田 勇さん（東町）



Q 最近どんなことをしていますか？

Windows11の新しい機能や無料ソフトの利用を楽しんでおり、11年間続けているブログ（Facebookにもシェア）に載せることもあります。

Q 最近嬉しかったことは？

教え子の同期会に招待され道東の標津町に行ってきました。皆いいお爺ちゃん、お婆ちゃんになっていましたが、中学生時代に限り、昔話に花が咲きました。その後も手紙や電話をくれたり、比布町に立ち寄ってくれたりと交流が続き、「次は比布で開くよ」「元気でね」などの声をかけてもらい、嬉しいやら有難いやらです。

Q 議会に期待することは？

定年退職後、終の棲家として比布町にお世話になって、早や27年目になりました。

私は新しい地に赴任したら、歩くことでその地を知ることが大切にしてきました。「足で稼いでなんぼ」なんて時代遅れと言われるかもしれませんが、歩くからこそ見える新しい発見があり、町の現状や町民の要望を知り、その気づきを議会に反映してもらいたいです。

（インタビュアー：遠藤 ハル子）

編集後記



介護予防事業で「カラオケで合唱」「童謡で合唱」を指導しています。「一人では恥ずかしくて声を出せない」「懐かしい」「1月1日の唱歌は学校の登校日で、校長先生からありがたい話を聞いた」など唄も心も解放されて、「この次は昭和40〜50年代の昭和の唄もやって欲しい」との話が出ました。「嬉しかったら続けたい」「何かしたい事がある」そんな方たちと、比布町で幸せに暮らすためにも、皆様お互い様を続けていきたいと思っています。

今年の1月議会から「タブレットの導入」（ペーパーレス化）をしました。現代の機器を上手に生かして議会活動を進めています。紙を廃止することで町と議会で、これまで3万6000枚の節減、議会からの連絡もタブレットに送られ、かつ保存性に優れ、ツールとしても最高です。

6月議会は6人の議員が一般質問をしました。練り上げられた質問を今号でお読みください。

（遠藤 ハル子）



議会広報特別委員会

委員長 植西 浩一
副委員長 佐藤 良彦
委員 遠藤 ハル子
大熊 勝幸
谷口 雅浩